



「朝陽の渋峠」長野県志賀高原 リンホフ45、シュナイダー210mm F5.6、F45、1/15秒、RVP100

私のフォトライフ

三重県 亀山市 梅林 正道

写真との出会いは随分昔となりました。今日までよく飽きもせず続けてきたなと思います。子供の頃、我が家の書院は今のようアルミサッシではなく、建具は板戸の雨戸と障子がはまっていました。雨戸の開いていない時は、昼間でも部屋は暗く障子に天然色で外の景色が写っていました。不思議な光景でとても美しく思いました。この光景は私の心情風景としていつも心のどこかに残っています。

学生の頃、初めて写真機に触れる機会がありました。それは二眼レフのカメラだと聞きました。そのカメラのファインダーを覗いた時、すごく綺麗に見え驚きました。あの子供の頃の暗い我が家の障子に写っていた光景とが重なり、写真機というものに興味を持ちま

した。写真を学ぶ中、あの障子に写った風景は、節穴が絞りであり、障子がピントグラスであり、針穴写真機と同じことなのだと気付きました。

我が家の近くに工事現場の写真など現像、焼き増しなどしている小さなDPE屋さんがあり、その店主さんに6×6のマミヤ6を譲り受けたのが最初でした。35mm全盛の時です。何か人前で蛇腹をパチンと開けレンズを出して撮影するのに抵抗もありましたが、全紙などに伸ばすと十分満足する写真となりました。何故かその後のカメラも35mmではなく、ローライフレックス66やイコンタ69、マキナ-67など、ブローニフィルムの写真機を使い、風景写真を中心に撮影していました。今もこれらの写真機で撮影するのはとても楽しいです。

大判写真は、名古屋支部のプロフォートの鶴見社長にご指導頂き、リンホフ4x5で入門です。奥の深さに日々悪戦苦闘しています。リンホフを組立ててファインダーで構図を決めたりピント合わせをしていると、昔の心情風景が思い出されます。よく写真仲間にデジタル全盛の時、「何故そんな面倒な思い写真機で撮影するの?」「デジタルは大判を超えたよ!」とも言われます。返答に困っていますが、これからもこの気難しい写真機で、ゆっくり心情風景を大切に撮影していきます。イメージサークルで学んだり、会員の皆様のご指導を頂き、写真を楽しみたいと思います。

2018展出展作品の審査進捗状況

実行委員長 田中 明

会員諸氏におかれては、日々、出展作品の撮影に励まれてることと存じます。9月の審査も終了し、いよいよ2018展の作品選考会は10月の1回を残すのみとなりました。会員諸氏におかれては、10月の最終選考会で出展作品審査を完了戴く様、お願い致します。

10月迄に出展選考を完了された会員は、**11月の最終出展作品確認会の際に、出展作品の差替審査を受けることが出来ます。**出展を希望される会員は、**必ず10月までに**出展作品選考会に作品を提出し、審査を完了して下さい。(昨年と同様に、11月の研究会だけに作品を提出して、出展選考の審査を受けることは出来ません)

9月選考会で出展作品審査を完了された会員は、以下の通りです。

安達 正樹・モノクロ3点

垣内 晃：モノクロ1点

澤田 平司：自由2点、モノクロ1点

鈴木 克彦：自由2点、課題1点

高須 秀峯：自由1点、課題1点

長谷川浩常：自由1点

松原 伸行：自由1点

松本 憲治：モノクロ1点

9月選考会で新規に出展審査を完了された会員3名を加え、に出展審査を完了された会員は23名となりました。

2018展 名古屋展の開催日程が決定致しました。平成30年4月3日(火)～8日(日)の6日間、名古屋市博物館3階ギャラリーにて開催が決定致しました。2018展の出展作品審査も10月研究会の1回を残すところとなりました。いよいよ2018展出展作品の準備も大詰めを迎えます。

会員各位からの出展審査への作品提出を、心よりお待ちしております。

10月研究会のお知らせ

研究会担当 垣内 晃

9月研究会を以下の日程で開催致します。会員の皆様、奮ってご参加下さい。

日時：10月21日(土) 13:30~15:30

場所：大阪・南船場 大阪写真会館

5階会議室

内容：

1. 作品講評と出展作品の選定

2018展 出展作品の最終審査を行います。については、1) 当日にポジフィルムのデジタルデータを持参戴くか、2) 原板フィルムを1週間前迄に事務局へ郵送戴くか、いずれかの方法で、**各自5点までの作品を審査に提出戴く様、**お願い致します。

2018展の出展作品審査は、残すところ10月だけとなります。会員各位におかれては、原板フィルムを出展審査に提出戴きます様、宜しくお願い致します。

【モノクロ部会の研究会日程】

9月モノクロ部会の研究会は、10月8日(日) 13:00から『神戸B&W Labo』にて開催します。(研究会は毎月第2日曜日に開催)

11月から出展用全紙プリントの製作を開始します。各位、準備のほど、お願い致します。

暗室は10時頃から使用出来ます。モノクロプリントの製作を希望される方は、モノクロネガフィルムを持参の上、参加下さい。



望遠鏡用木製三脚とベルボンの雲台

私のフォトライフ

岐阜県 各務ヶ原 松尾 朋和

1984年、少年だった時、担任が理科を受け持つ先生であったこともあり、ある時、土星の話をしてくれた。皆が帰った後に、学校の屋上で望遠鏡をセットして星を観察し、土星の輪が見えたて感動したという話があった。

この話を聞いて、星に興味が湧いてきたのです。そして、何故か安い屈折望遠鏡を親が買ってくれました。その日から、晴れさえすれば天体観察です。月や惑星・星団・星雲・銀河の観察や、日食などの天文ショーがあればその時間に関係なく観察していたことを懐かしく思います。そんな中、時は1985年。76年に一度、太陽に接近するというハレー彗星が地球の傍を通るので6等星位で見えると云う噂を聞き、雑誌を頼りに少年は望遠鏡を片手に晴れさえすればハレー彗星を見ようとやっきになっていましたが、結局観察できずに終わりました。

その後は反射望遠鏡の自作キットを買って鏡筒を作りました。丁度この頃、伯父が望遠鏡を買って使っていたが、忙しくて使えないからと云って望遠鏡を譲り受けました。そんな

こんなで望遠鏡が3本になって、暇さえあれば天体観察です。

その頃には彗星もいくつか観察できるようになりました。中3の夏休みにはレビー彗星が4等星程度で観察でき、毎日彗星を観察していました。彗星は、望遠鏡で観察すると白くてボーッとしているのですが、彗星は自身で独自に動いていますので、しばらくすると別の位置に移動していますから面白いです。

そのうち天文雑誌に掲載されている星雲や銀河などの天体写真に興味を湧いてきたので、高校生になって小遣いを貯めて、当時よく天文雑誌に掲載されていたカメラがキヤノンFTbだったので、ジャンクでこれを買って天体写真に挑戦しました。

当然、思う様な写真は撮れません。星が流れてしまいます。この時行っていたのは「ガイド撮影」で、カメラを望遠鏡の上に取り付け、望遠鏡にガイド用に十字線が入った接眼レンズを付けて、星の動きを追尾して撮影する方法です。レンズの焦点距離が大きくなるほどガイドする星とのズレの許容範囲は狭くなります。注意しなくてはならない点は、極軸セッティングを正確に行わなくてはならないことです。しかし、機材が新しい時はまだ良いですが、経年劣化や移動時の振動により極軸のパターンがずれていることがあるので厄介です。また、少しの風などで鏡筒が振られると、揺れが収まるまではお手上げです。

対象の導入も難しいものです。星雲や星団、銀河などは、その殆どが肉眼で見えません。見えないモノをどうやって写野の中心に導入するのか。この時は周辺の星などを頼りに狙いを定めて「この辺りか？」と、一か八かの勝負です。明るい星を導入し、内眼レフ内臓のファインダーではピントの山が一番鋭くなるところでピントを合わせますが、それでもピントは合いません。随分後になって知った方法ですが、フィルムをセットする前にフィルムレールにすりガラスを押し当て拡大鏡69倍をすりガラスに押し当てて星のピントを合わせます。ピント合わせには「ナイフエッジ法」もあるの、ですがイマイチ成功し

た試しがない。「ロンキー法」と云うナイフエッジ法を発展させた方法もありますが、それ用の道具を持っていない。

湿度が高い季節では、レンズの結露対策も重要です。長時間露光を行う天体写真の撮影中は、レンズが知らない間に曇ったり結露することがあります。フードをつけると多少は緩和しますが、ヒーターやホッカイロをレンズに巻いて対策します。

バランスウエイトを使って鏡筒やカメラの釣り合を取りますが、そのバランスが崩れていても架台に負荷がかかりよくありません。

星は晴れなきゃ見えませんので、天候も重要なポイントです。ガイド用の星を使ってガイドするのですが、撮影中に雲に覆われ現像したら何も写っていないこともありました。このようにガイド撮影は気を付けなくてはいけないことが幾つかあります。

以上、大判を始めるずい分前に行っていた35ミ判、中判の撮影での注意でした。

思ったことを取り留めもなく書きましたが、最後に私が今、大判撮影で使っている三脚ですが、初めて買ってもらった屈折望遠鏡の三脚が木製三脚だったので、これを4x5判に使用しております。適度に重く、ブレもなく丁度良いです。添付写真は、その三脚とベルボンの雲台です。撮影はキヤノンFTbを、この原稿用に久しぶりに使って撮影しました。内蔵露出計は壊れて動かないので、大判で使っている露出計で測りました。

その他のデータは、レンズ：キヤノン FD 28mm/f2.8、1/125秒、f16、RVP100、フィルター無し、増感なし。

秋の面河溪・小田深山溪谷撮影会

撮影会担当 高田 幸二

下記の日程にて、「秋の面河溪・小田深山溪谷撮影会」を催行します。撮影会の詳細につきましては、同封の撮影会案内書をご一読下さい。

今回の撮影会は、四国の撮影ポイントを熟知された愛媛県松山市在住の安川会員に現地の撮影ポイントを案内して戴きます。

2019展の課題作品のテーマは「水のある風景」です。今回は溪流・溪谷での撮影会ですので、2019展のテーマにピッタリの撮影会となりますので、四国での「秋の水のある風景」撮影を、思う存分楽しみましょう。

日時」11月3日(金)～5日(日)

参加費：17,000円

宿泊場所：国民宿舎 古岩屋荘
獅子越荘

参加人数：10名程度

参加を希望の方は、同封の参加申込みはがきに必要事項を記入し、62円切手を貼付の上、10月23日(月)(当日消印有効)迄に投函して下さい。

モノクロ部会活動報告

モノクロ部会 松本 憲治

早いもので、5月にモノクロ部会の活動拠点の「神戸 B&W Labo」を開設してから5回目の研究会を、9月10日(日)に開催しました。当初は暗室作業に不慣れなメンバーや、久しぶりに暗室作業をするメンバーもおりましたが、何回かの研究会での暗室作業の経験を経て、暗室作業を楽しめるようになりました。

この間、橋本会員には暗室内の設備も夏場の暑さ対策のエアコンを設置して頂いたり、暗室内の引伸し機の台数が増えるなど、少しずつですが快適なプリント環境の構築が進んでおります。9月には16x20サイズの印画紙をそのまま現像処理できる薬液バットを新しく導入し、「16x20サイズ印画紙を使った小全紙プリント」を楽しめる環境が整いました。

モノクロ部会の活動目標は、「写真展に展示する全紙プリントの製作」です。イーゼルや薬液バットなどの「全紙プリントを制作する環境」は、既に出来上がっております。

10月以降、出展候補作品が決まったメンバー

から、順次、全紙プリントの製作を開始する運びになります。

「神戸B&W Labo」の暗室は、モノクロ部会メンバー以外の利用も可能です。「モノクロ写真に興味があるが、暗室作業をする場所がない」とお悩みの方は、遠慮無く「神戸B&W Labo」をご利用下さい。暗室の利用料金や、暗室までのアクセス、暗室作業の指導などについては、遠慮無く下記MLに参加戴いて、メンバーに相談下さい。

モノクロ部会ML：

<http://www.freeml.com/lpa-nippon>

上記のURLへアクセスすると、MLへの参加手続きができます。手続きをすると、承認作業なしにすぐにMLに参加できます。

これからの第2日曜日開催の研究会では、「プリント技術の研鑽」を主題として「暗室作業を中心に実施」の予定です。印画紙用現像液は、毎月、研究会開催日に新液に更新します。ついては、研究会に参加戴くと新しい現像液で快適なプリント作業が楽しめます。

なお、12月研究会については、「2018展出展用プリントの品評会」を中心に行う予定です。

事務局からの連絡事項

事務局 松本 憲治

【会員名簿について】

最終の年会費振込期限が過ぎ、今年度の最終会員名簿が確定致しましたので同封致します。

会員名簿は重要な個人情報ですので、取り扱いに際しては、充分ご注意下さい。

【出展作品データシートについて】

2018展の出展作品のデータシートを作成致しましたので、同封致します。カラー作品用とモノクロ作品用の2枚のデータシートが入っておりますので、記入の際に取り違えないようご注意下さい。今年度のカラー作品は「全倍プリントのみ」となります。複数の作品を出展される方は、不足分は各自でコピーして

記入下さい。

データシートは出展作品の原板フィルムとともに、11月の研究会で開催します「最終出展作品確認会」の開催日迄に事務局の松本宛に届くよう送付・提出して下さい。記入に際しては、同封の「データシート記入時の注意事項」を参照下さい

【出展諸費用に関する注意】

出展作品点数毎の「出展諸費用一覧表」を同封致します。複数作品の出展を検討される方は、一覧表を参照の上、出展作品数の検討をお願い致します。カラー作品を2点出展する場合、思いの外、出展経費が高みますのでご注意下さい。出展諸費用の振込は、原則として「12月20日期限での一括振込」をお願い致しますが、分割する場合は、「12月20日までに出品制作費」、「1月19日までに出品料と作品集制作費」に分割して振込をお願い致します。振込先の銀行口座は、下記の振込口座（年会費の振込口座と同じ）へお振り込み下さい。

【振込口座】

ゆうちょ銀行

記 号：14440

番 号：43090361

口座名義：ニホンオオバンシャシンカキョウ
カイ

他の金融機関から送金される場合は

ゆうちょ銀行

店 名：四四八(読み ヨンヨンハチ)

店 番：448

預金種目：普通預金

口座番号：4309036

名 義：ニホンオオバンシャシンカキョウ
カイ



宮城県 / 蔵王町 三階瀧 5x7 210ミリ

『題名』の持つ力 (その2)

鈴木 克彦

この4月号で「題名の持つ力」を書きましたが、とき既に『日本大判写真展』2017は京都展が終わり 名古屋展に廻っていました。改めて2017展出展作品目録を見ました。目録から見た中で 印象に残った題名は「時の綺麗」「涼感」「大地創造」「断崖絶壁」「霧光幻景」「源流向夏」「流中残秋」「幽玄落瀑」(会員自由作品の中から)どれも「どんな景色やろう?どんな状況やろう?作品を見てみたい!」と、かき立てられます。何となくイメージが沸いてきます。想像力たくましく思い巡らします。作品を見て「なるほど!!!これはいいわ!」となれば合格点でしょうか。題名を付けるという行為は、作者が撮影した作品に対して「私はこういう意図で捉えたものです」と言う、イメージを的確に(この場合は)観る人に伝える、そういう行為だと思います。誰が見ても「○○の滝」「○○の富士」と来れば、ふうんとその作品を流し目で通り過ぎていくかも知れません。『題名』を見て、一瞬立ち止まり、考えさせる?謎ときをさせる?いいじゃないですか。そこにはストーリーを感じさせる、何かを思わせるそう

言った力を秘めているからです。作者はそれぞれに自分の思いを込めて風景の中から切り取ります。

そこには、自ずと作者にはその風景の(自然景観の)中に、ビビット来るものがあったに違いありません。それがなんだったのかを伝えずしてどうしますか。その思いを、場合によっては四字熟語で表現する?あるいは当て字で表現する?それも作者の持ち味となりましょう。

四字熟語辞典があります。喜怒哀楽 色々な情景を教えてくれます。撮影した状景を思いそれにピタッとくる熟語であったり、造語を入れ替えてみたりしながら、題名を作っていくのも楽しいものです。イメージした情景の適切な雰囲気を持たせて、観る人にストーリーをくみ取ってもらう、または独特のストーリーを作ってもらうというのも撮影者冥利に尽きるというものでしょう。絵画では一時「無題」または「習作」と言った題名で出展していた方が居られましたが、そこでは作者は「なにを考えて制作したのか?」と論争したこともあったようです。

「あらためて『題名』の持つ力を考えてみては如何でしょうか。貴方の作品が光りますよ!